

2022年4月20日

SOMPOホールディングス株式会社

SOMPOケア株式会社

ICTを活用した新しいケアラー支援モデル 「ケアエール」アプリをリリース ～シニアの”Well-being”実現を目指して～

SOMPOホールディングス株式会社（東京都新宿区／グループCEO取締役代表執行役会長：櫻田 謙悟、以下「SOMPOホールディングス」）とSOMPOケア株式会社（東京都品川区／代表取締役社長：鷲見 隆充、以下「SOMPOケア」）は、ケアラー^{※1}を支援する新しい在宅介護モデルについて、福島県会津若松市などの地域と連携しながら、昨年4月から研究・実証を進めてきました。この度、研究・実証で蓄積した成果を踏まえ、ICT（情報通信技術）を活用してケアラーを支援する「ケアエール」アプリを2022年4月からリリースします。

1. 背景・目的

急激な人口減少と高齢化が進展する日本において、多様な就労・社会参加や技術革新により、生産年齢人口の減少を補完する取組みが官民を挙げて進められています。政府が目指す新たな社会Society5.0（超スマート社会）^{※2}においても、住民が取り残されない仕組みや誰もが安心できる社会保障制度の構築が重要となっています。

SOMPOホールディングスとSOMPOケアでは、「安心・安全・健康」に資するソリューションの一環として、「健康寿命の延伸」を目的にシニアの“Well-being”^{※3}を実現する新しいサービスの開発や提供を目指しています。今回の研究や実証のフィールドとして、ICTや環境技術などを活用したスマートシティの取組みを進めている会津若松市^{※4}の協力を受け、昨年より開発・実証を進めてきました。

シニア世代のお困り事の一つである家族・親族などの身近な人の介護に注目し、在宅で介護をするケアラーの負担軽減と要介護者に対するケアの品質を高めることを目的に、地域での医療・介護連携が深まる新しい在宅介護モデル構築を目指して、さまざまな可能性を調査・研究しています。

その一環として、ケアラー向けの支援アプリの開発に着手し、調査・インタビューを繰り返しながらアプリの機能・デザインの改良を重ねて、この度、全国のケアラーの方々に新しい価値を提供するべくアプリをリリースしました。

2. 「ケアエール」アプリの概要

ケアラーや医療介護従事者へのインタビューの結果から、ケアラーの悩みの根底にある、家族・親族・ケアマネジャーなどの介護生活に関わる方々とのコミュニケーション方法に着目しました。その悩みを解決する手段として、ケアラーや要介護者が、日々の出来事や心情を気軽に共有でき、家族・親族・ケアマネジャー・医師など周囲の人たちも自然と関与しやすくなることで、ケアラーの心に余裕が生まれ、要介護者や周りの方々との絆を深めることができるコミュニケーションツールをコンセプトにしました。実証でご利用いただいている方々からも、今まで電話ではうまく伝わらなかった日々の様子が「ケアエール」アプリで分かりやすくなり、周囲に気軽に相談できるとの声を頂いています。アプリの利用は無料で、誰でもダウンロード可能です。主な機能・特長については、（別紙）をご参照ください。

また、会津若松市内の地域包括支援センターの協力を得ながら、センターの包括ケア業務ツールとして、「ケアエール」の利便性や新たな活用方法についても検証を始めています。自立した生活を送られている高齢者が遠方の



ご家族と日々の出来事や心情を共有されるケースや、地域包括支援センターの職員やケアマネジャーが独居の高齢者を見守るためのツールとして活用する事例も出ています。

こうした活用事例も参考としつつ、「一般社団法人スーパーシティA i C Tコンソーシアム」※5と共に会津若松市での都市OS連携※5を前提に、地域の住民に対する防災・ヘルスケア等のさまざまなサービスと連携することで、スマートシティにおける地域包括ケアのツールとして発展させることを目指していきます。

3. 今後について

SOMPOホールディングスとSOMPOケアは、地域包括ケアシステム※6を充実、発展させたい行政・自治体とともに、「ケアエール」を活用した取組みを進めていきます。シニアの”Well-being”に資する取組みを通じて、さまざまな社会的課題を解決するソリューションを提供し、デジタルを活用しながら、人々が自分らしく豊かに生きることができスマートコミュニティの実現に取り組んでいきます。

※1 ケアラーとは、介護や看病、療育が必要な家族・親族を無償でサポートする方を指します。

※2 Society 5.0とは、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」（内閣府）と定義されています。

※3 “Well-being”とは、身体的・精神的・社会的にも満たされた状態（WHO定義）を指します。

※4 会津若松市では、ICT（情報通信技術）や環境技術などを、健康や福祉、教育、防災、エネルギー、交通、環境といった生活を取り巻く様々な分野で活用し、将来に向けて持続力と回復力のある力強い地域社会と、安心して快適に暮らすことのできるまちづくりを目指し、スマートシティ化の取組みを進めています。

※5 「スーパーシティA i C Tコンソーシアム」は、オプトインによるデータ活用とパーソナライズによる市民中心のスーパーシティ実現に向け2021年に設立されたコンソーシアムです。2011年にアクセンチュア・会津若松市・会津大学の産学官連携で始まった東日本大震災からの復興に向けた取組みが、先進的なスマートシティのモデルへと発展しました。本コンソーシアムでは、10年以上をかけて培ってきた知見、プラットフォーム、ネットワークをもとに、会津における地域DX（デジタル変革）を目指すとともに、日本のあるべきスマートシティのモデルとして全国に発信しています。SOMPOホールディングスやアクセンチュアといった企業のほか、市内の地元企業、団体など、約70の会員企業・団体が、組織の枠を超えたコラボレーションを実践しています。会津若松市では2015年に、アクセンチュアの支援のもと、スマートシティのデジタル基盤となる「都市OS」を導入しました。この基盤を中心に、介護・介護予防、ヘルスケア、エネルギー、観光、防災、決済領域など、幅広い分野のスマートシティサービスが、志を共にする企業によって開発、運用されています。SOMPOホールディングスは、ヘルスケア分科会デジタル介護・介護予防のリーダー企業を担っています。

※6 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムです（厚生労働省）。

以上

<「ケアエール」公式ページ>

<https://careyell.com/>

※リンク先の公式ページもしくはAppStoreまたはGooglePlayからインストールできます。



大切な人の日常を
かけがえのない日々。

(別紙) 「ケアエール」アプリの主な機能・特長



1. 身近な人たちと日常で関わりやすい

「ケアエール」では、ケアラーや要介護者が、要介護者日々の出来事や心情について、家族・親族・ケアマネジャー・医師など周囲の人たちと気軽に共有できます。
(要介護者ごとに情報を共有するルームを作成し、ケアラーや要介護者が招待したルーム内のメンバーだけに公開されます)



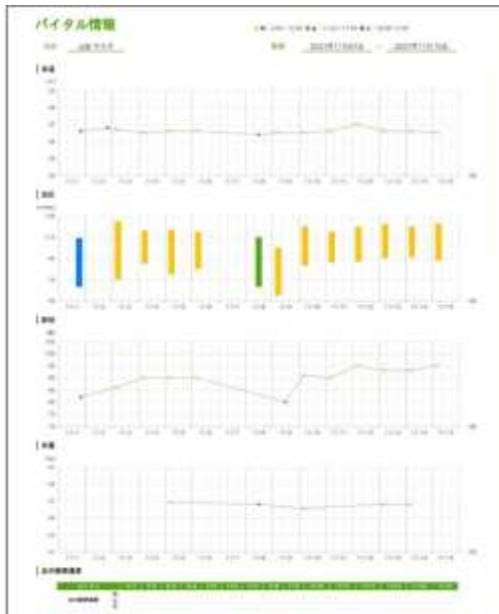
2. 大切な人の体調と予定を共有しやすい

体温、血圧などの基本的な体調記録のほか、食事や服薬、排便などの生活記録、嬉しかったことや気になること、心の天気など気持ちの記録も可能です。
また、ケアに関わる予定や家族間の予定をカレンダーで共有しながら、日々の記録を思い出として振り返ることもできます。



3. お互いへのエールを送りやすい

共有された日常に対し、ルームに参加しているメンバーからスタンプやコメントで簡単にエールを送ることができます。皆からのエールが加わり、要介護者の日常はかけがえのない日々になっていきます。



4. 体調記録や生活記録を簡単に出力

期間を指定し、2週間単位で体調記録や生活記録、気になることをPDFにして簡単に出力できます。
主治医やケアマネジャーに普段の様子を伝えやすくなります。



5. 公式ルーム： 生活に役立つ情報を得ながら、コミュニケーション できる場

アプリを使われる方が全員参加できる公式ルームとして、在宅での介護生活をより豊かにできるヒントにつながる情報（家族も一緒に出来る体操やレクリエーションコンテンツ、簡単レシピなど）を定期的にお届けします。
また、地域のサロン（ケアラー同士が集まって悩みを共有したり、相談する場）とも連携しながら、お悩み別にオンラインサロンを開催し、ケアラー同士のコミュニケーションもお手伝いします。



6. 地域包括支援センター公式ルーム： 地域の情報を得ながらコミュニケーションできる場

地域包括支援センターとして運営する公式ルームとして、地域で主催するイベントやサービスを紹介しながら、地域のネットワークづくりを支援します。
今後は行政サービスの入口として、地域のスマート化サービスへの拡張を目指します。
※会津若松市など一部の地域で試行中